

2019年8月20日
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～川崎港見学研修を実施～

日本船主協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運の重要性を取り上げていただくよう、教育関係者に対し、商船や海事施設等の見学会等を実施しております。

今般、川崎市港湾局および川崎市教育委員会の協力を得て、昨年に引き続き、8月8日(木)に川崎市内の小中学校の教員等約20名を対象に川崎港見学研修を開催しました。

当日のバス車内では、小・中学校の学習指導要領改訂に触れながら「川崎港ではエネルギー資源・食料品など様々なものが輸入され、完成自動車が輸出されている」「川崎港で輸入されたものが首都圏の産業と市民生活を支えている」ことなどを挙げ、海運・港湾の役割について説明しました。

その後乗船した同市港湾局巡視船では、海側からコンテナターミナルや石油基地、荷役中のLNG船や自動車船などの様子を見学しました。

また、川崎港コンテナターミナルでは、家具や生鮮食品をはじめ、あらゆるものがコンテナで運ばれてくるとことや日本発着の国際郵便物を取り扱う川崎東郵便局がコンテナターミナルの直背後にあり、川崎港を通じて世界と繋がっていることなど身近なモノにも海運が関わっていることが説明され、同施設屋上からコンテナ船の荷役を見学しました。

教員からは、「川崎港を初めて見て勉強になった」「海運や港湾は身近ではないと思っていた。身近なものが地元の港で輸入されていることに驚いた。児童に港湾が日常生活と大きく関わっていることを伝えたい」などの感想が寄せられ、海運・港湾は日々の生活と密接に関わっていることへの理解を深める機会を提供することが出来ました。

当協会では、今後とも各自治体や地元企業等からのご協力も仰ぎながら皆様の日々の生活を支える海運を広く知っていただくための活動を実施してまいります。

